

# 図書館職員学び直し講座受講者の学習プロセス

## —グラウンデッド・セオリー・アプローチによる アンケート分析—

木内 公一郎

### 1. 目的

平成21年11月よりスタートした「上田女子短期大学図書館職員学び直し講座」(協力:長野県図書館協会)<sup>1</sup>の受講者のアンケートを分析して、学習プロセスを分析する。受講者の背景、知識、どのような問題意識をもって、受講し、どのように認識を変化しているのか。それらを探ることが目的である。研究方法としてはグラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)を利用し分析を行う。

### 2. 職員研修について—講座開設の背景

拙著「公共図書館職員の研修への意識と考え方—アンケート調査から読み取る」<sup>2</sup>では過去に行われた研修へのニーズを調査したアンケートを分析した。次のようなことが解明された。第1に職員の個別ニーズだけでなく、理論中心でもない体系的な知識と技術のバランスのとれた研修プログラムが必要である。第2に鳥取県立図書館など公共図書館界をリードする先進モデルの職員研修と一般モデルの職員の研修ニーズを比較をした結果、先進モデルの業務・サービスをモデルに研修を組み立てるべきであるという結論に達した。本学では、長野県図書館協会と連携し、拙著の結論を参考にして、講座を開設するにいたった。

### 3. 図書館職員学び直し講座の概要

#### (1) 目的

平成24年度から「図書館に関する科目」が改正され、最大で13科目24単位に改正され、司書資格を取得しようとする人は新規の科目群を履修することが義務づけられる。

既に資格を取得した職員も新しい科目の内容を積極的に学習することが望ましいとされている。また最近の傾向として地域の情報拠点として図書館に対する要求は年々高まっていることはいうまでもない。このような状況を踏まえ、「図書館に関する科目」に対応した、体系的な教育プログラムを提供することによって長野県の図書館職員等の専門性向上を図り、地域や住民に役立つより充実した図書館サービスの提供を目的として、上田女子短期大学主催「図書館職員学び直し講座」を開設した。巻末に第1講座「図書館総合演習」のシラバスを掲載した。

## (2) 対象及び内容

図書館司書有資格者、図書館での勤務希望するもの、職員、並びに図書館に関心を持つ市民を対象とする。司書資格の有無については問わないとした。

「大学等における履修証明制度」による履修証明を授与する。所定の6単位を取得した受講生には、本学より履修証明書（「長野県専門司書」）を授与する。さらに図書館司書有資格者について日本図書館協会専門職員認定制度の申請要件となる。

## (3) 期待される効果

本講座の実施により、図書館職員等にとって、重要だと思われる内容について、体系的、継続的に学習要望に応えたとともに、「図書館に関する科目」に登場した新科目や重点科目を履修することができ、職員等の学習経験の蓄積、知識の向上・スキルアップにより、現場の図書館における業務、サービスの向上、充実を図ることができる。特に、本講座で重視し、育成されると期待している内容は以下の通りである。

- 1) 図書館の意義を行政や住民に充分説明できる職員の育成
- 2) 情報化への対応能力・情報検索技術のスキルアップ
- 3) 課題解決支援型サービスに必要な知識、関係づくり
- 4) 主題専門知識の修得

## (4) 実績

表1は授業日毎の受講者数である。

(表1)

授 業	受講者数	授 業	受講者数
第1回授業 (平成21年11月16日開講)	18名	第5回授業 (平成22年2月1日開講)	15名
第2回授業 (平成21年12月1日開講)	18名	第6回授業 (平成22年2月15日開講)	12名
第3回授業 (平成21年12月14日開講)	18名	第7回授業 (平成22年3月8日開講)	12名
第4回授業 (平成22年1月18日開講)	15名	第8回授業 (平成22年3月15日開講)	13名

延べ受講者は121名、1授業あたりの平均参加者は15名、なお参加申込者は全員で26名であった。

#### 4. グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)について<sup>3)</sup>

GTAとはデータに基づいて分析を行い、データからカテゴリー（概念）を抽出し、カテゴリー同士の関係づけによって理論を生成しようとする研究方法である。

GTAに利用されるデータはインタビュー、日記、記事など幅広く適用することができる。

まずデータを切り出し、1つの切片をプロパティ（特性）、ディメンション（次元）で分析する。これにラベル（コード名）をつける。さらに類似のラベルを集めて、カテゴリー（概念）を形成する。ここまでをオープンコーディングという。

さらに現象ごとにカテゴリーとサブカテゴリーに分けることをアクシャルコーディングという。最後に現象同士をプロパティとディメンションで関係をつくり、理論を作り上げることをセレクトティブコーディングという。

#### 5. 分 析

受講者アンケートは平成22年1月に実施された。回答者は14名である。

アンケート用紙は巻末に掲載した。GTAの分析対象はアンケートの自由記述欄に書き込まれた文章である。これらの中からGTAの枠組みに適合する記述を選び出し、

データの読み込みを行った。データ数は24個である。

(表2) アンケート調査

アンケート記入者所属	公共図書館	学校図書館	所属なし	その他	合計
アンケート回収件数	4	7	2	1	14

(1) データの読み込み

GTAではデータを文脈から切り離し、切片化する。その切片化されたデータをプロパティとディメンションに分割する。そこに適当なラベル名をつけて、データを抽象化する。表3はラベル名が付与されたデータの一覧である。

(表3) データ一覧

data number	Data	プロパティ	ディメンション	ラベル名
1	新しい図書館学をひとりで探して勉強するには難しい	ひとりで勉強すること	難しい	独学の難しさ
2	自己判断のための情報が保証されず、自己責任だけが課せられているのが現在の状況だと知り、改めて図書館が情報提供することの大切さを感じました。	現在の情報環境 社会の中の個人	自己判断のための情報保証されず 一方的な自己責任	アンバランスな情報環境
3	図書館についての最新の動向を知り、実践に役立てられるようなことを学びたいです。	図書館の動向	最新で実践に役立つ	実践的で新しい図書館学への期待
4	ご自身の、レファレンスサービスを通じての人とのふれあいのお話が印象的でした。人に喜んでもらえ、自分も喜びを感じることのできる、やりがいのあるサービスであることが分かりました。元気がもらえる、楽しいお話でした。	レファレンスサービスの性格	人に喜んでもらえ、自分にも喜びを感じることができる	喜びを感じるレファレンスサービス

data number	Data	プロパティ	ディメンション	ラベル名
5	受講者同士の自己紹介など、せっかくなので横のつながりもできるような工夫があるといいのではないかと思います。	講座への要望	横のつながり	受講者同士のつながり
6	激しい時代のうつりかわりに対応できるよう	学びの理由	時代への対応	激しく変化する時代へ対応する学び
7	今後、学校図書館はどのような点を柱に運営したらよいか。公共図書館を参考にしながら。	学校図書館の運営	公共図書館を参考にする	学校図書館のモデルとなる公共図書館
8	学校図書館としての方向性の一つとして「自己判断自己責任」というコンセプトが社会全体に成立するように今後の図書館指導はどのようにしたらよいか、考えるきっかけを与えてもらった。(図書館の)必要性を認識してもらうことが第1である。	学校図書館における指導	「自己判断自己責任」というコンセプトが社会全体に成立するようにもっていく。	自己責任社会成立への指導
9	地域活性化に図書館が役立つとは思いませんでした。いろいろなシーンで使える"図書館が多くなれば…。	図書館への望み 図書館の意外な役割への驚き	"使える"図書館が増えること大きい	図書館の「発見」
10	司書の資格がある人が図書館で働けず、資格のない人が働いているという実情。専門職業として働けるのであればとてもありがたいです。	専門職業としての司書	強い意欲	専門職としての司書願望
11	様々な情報の活用方法を学び、図書資料との組み合わせでより良いサービスができる様にしていきたいと思います。	より良いサービスを行うための学び	様々な情報活用方法と図書資料の組み合わせ	良いサービスを行うための情報の組み合わせ

data number	Data	プロパティ	ディメンション	ラベル名
12	課題解決型の図書館のあり方の重要性を再認識できるお話を聞くことができました。学校図書館では、生涯にわたって、図書館を活用していく基礎的な力をつけてあげなければと思いました。	学校図書館の役割	児童生徒たちが生涯にわたって、図書館を活用するための基礎力をつけること。	基礎力をつける学校図書館
13	レファレンスサービスの大切さ、奥深さをあらためて学ばせていただきました。	レファレンスサービスの認識	大切であり、奥深い	レファレンスサービスの認識の深さ
14	学校図書館でも、子ども達の実態に合わせて、きめ細かな対応を積み重ねていくことが大切なのだと思えました。	子ども達への指導	実態にあった、きめ細かい対応	子ども達への指導
14'	地域資料の大切さ、活用までの準備の大変さが良くわかり、自分達が地域資料をどう扱い活用に結びつけていくかを考えていく上で参考になることを多く学ぶ事ができました。	地域資料の認識 地域資料の活用	大切である。 準備の大変さ。	地域資料の重要性と活用
15	取得者等の知識・技能を持った人達がそれを活かして活動できる環境を整えるために（長野県図書館協会人材登録制度は）良いと思います。	履修証明取得者の知識技能	活かす、活動できる環境の必要性	履修証明取得者の環境と知識・技能
16	そうすることでそのまわりの人達にも知識・技能が広がっていくとよいと思います。	履修証明取得者の知識技能	周りの人にも広げて行くこと	周囲への知識の広がり
16'	子どもたちの学習には自分が住んでいる地域のことや県のことを勉強する事が多いが、レファレンスで資料探しに苦勞するのは地域のことである。難しいことである、公共も学校も協力して、地域全体で取り組んでいく必要性を感じた。	地域に関するレファレンスについて	公共図書館と学校図書館も協力して地域全体で取り組んでいく必要性を感じた。	地域の協力でレファレンスサービス

data number	Data	プロパティ	ディメンション	ラベル名
17	きちんと勉強したことがない私にとって、この講義（常世田氏の講義）は今まで聞きかじって来たことを再確認でき、「こういうことだったのか」と、フワフワと宙に浮いていた知識を自分の体の中に落ち着かせることができました。きちんとまとまった言葉で教えていただくことの大切さを実感し、感謝しております。	常世田氏の講義を受ける前の知識の状態  講義の後の知識の状態	ふわふわと宙に浮いていた知識  自分の体のなかに落ち着かせることができた。	知識を自分の体の中に落ち着かせることのできた常世田氏の講演
18	日々、子どもたちと共に楽しんでいるレファレンスですが、齊藤先生の話がうかがって、ますますレファレンスが楽しみになりました。検索技術の向上させる必要性を感じました。	レファレンスサービスへの姿勢  自分の技術レベル	子どもたちと共に楽しむ  検索技術向上の必要性	レファレンスサービスへの新たな認識
19	質問：「受講申し込みをするにあたって大変だった点は何ですか」  司書業務を全く知らないため、日常の少ない勤務の中から推測するの身である点	講座受講への不安	大きい	少ない業務量からくる自分の知識量への不安
20	毎回すばらしくハイレベルな先生方の講習なので私などはもったいない	自分の知識への謙遜	大きい	図書館専門知識への謙遜
21	（司書）資格がないまま仕事をしていますので、きちんとした勉強をしてみたいと考えています。	資格無いことへの不安 勉強への意欲	強い 強い	資格無しに比例する勉強への意欲
22	ついていくのが、やっとなのですが…楽しくドキドキしながら、学ばせて頂いております。	自分の知識への謙遜 学びの楽しみ	強い 強い	ドキドキ感と学びの楽しみ

(2) カテゴリー化

ラベル名を付与したデータをさらに同じ性格をもつ9つのデータ集合を作り、カテゴリー名を付与した。

表4 カテゴリー分類

カテゴリー1：現代の情報環境

data number	Data	プロパティ	ディメンション	ラベル名
2	自己判断のための情報が保証されず、自己責任だけが課せられているのが現在の状況だと知り、改めて図書館が情報提供することの大切さを感じました。	現在の情報環境 社会の中の個人	自己判断のための情報保証されず 一方的な自己責任	アンバランスな情報環境

カテゴリー2：レファレンスサービスの喜び

4	ご自身の、レファレンスサービスを通じての人とのふれあいのお話が印象的でした。人に喜んでもらえ、自分も喜びを感じることのできる、やりがいのあるサービスであることが分かりました。元気がもらえる、楽しいお話でした。	レファレンスサービスの性格	人に喜んでもらえ、自分にも喜びを感じることができる	喜びを感じるレファレンスサービス
---	--	---------------	---------------------------	------------------

18	日々、子どもたちと共に楽しんでいるレファレンスですが、齊藤先生の話がうかがって、ますますレファレンスが楽しみになりました。検索技術の向上させる必要性を感じました。	レファレンスサービスへの姿勢 自分の技術レベル	子どもたちと共に楽しむ 検索技術向上の必要性	レファレンスサービスへの新たな認識
----	---	----------------------------	---------------------------	-------------------

カテゴリー 3：レファレンスサービスの再認識

11	様々な情報の活用方法を学び、図書資料との組み合わせでより良いサービスができる様にしていきたいと思います。	より良いサービスを行うための学び	様々な情報活用方法と図書資料の組み合わせ	良いサービスを行うための情報の組み合わせ
13	レファレンスサービスの大切さ、奥深さをあらためて学ばせていただきました。	レファレンスサービスの認識	大切であり、奥深い	レファレンスサービスの認識の深さ
16	子どもたちの学習には自分が住んでいる地域のことや県のことを勉強する事が多いが、レファレンスで資料探しに苦労するのは地域のことである。難しいことである、公共も学校も協力して、地域全体で取り組んでいく必要性を感じた。	地域に関するレファレンスについて	公共図書館と学校図書館も協力して地域全体で取り組んでいく必要性を感じた。	地域の協力でレファレンスサービス

カテゴリー 4：専門職としての知識の広がりとながり

10	司書の資格がある人が図書館で働けず、資格のない人が働いているという実情。専門職業として働けるのであればとてもありがたいです。	専門職業としての司書	強い意欲	専門職としての司書願望
15	取得者等の知識・技能を持った人達がそれを活かして活動できる環境を整えるために（長野県図書館協会人材登録制度は）良いと思います。	履修証明取得者の知識技能	活かす、活動できる環境の必要性	履修証明取得者の環境と知識・技能
16	そうすることでそのまわりの人達にも知識・技能が広がっていくとよいと思います。	履修証明取得者の知識技能	周りの人にも広げて行くこと	周囲への知識の広がり

カテゴリー 5：学校図書館における社会の動きに合せた指導

8	学校図書館としての方向性の一つとして「自己判断自己責任」というコンセプトが社会全体に成立するように今後の図書館指導はどのようにしたらよいか、考えるきっかけを与えてもらった。(図書館の)必要性を認識してもらうことが第1である。	学校図書館における指導	「自己判断自己責任」というコンセプトが社会全体に成立するようになっていく。	自己責任社会成立への指導
12	課題解決型の図書館のあり方の重要性を再認識できるお話を聞くことができました。学校図書館では、生涯にわたって、図書館を活用していく基礎的な力をつけてあげなければと思いました。	学校図書館の役割	児童生徒たちが生涯にわたって、図書館を活用するための基礎力をつけること。	基礎力をつける学校図書館

14	学校図書館でも、子ども達の実態に合わせて、きめ細かな対応を積み重ねていくことが大切なのだと実感しました。	子ども達への指導	実態にあった、きめ細かい対応	子ども達への指導
----	--	----------	----------------	----------

カテゴリー 6：不安を解消する学び

1	新しい図書館学をひとりで探して勉強するには難しい	ひとりで勉強すること	難しい	独学の難しさ
17	きちんと勉強したことがない私にとって、この講義(常世田氏の講義)は今まで聞きかじって来たことを再確認でき、「こういうことだったのか」と、フワフワと宙に浮いていた知識を自分の体の中に落ち着かせることができました。きちんとまとまった言葉で教えていただくことの大切さを実感し、感謝しております。	常世田氏の講義を受ける前の知識の状態  講義の後の知識の状態	ふわふわと宙に浮いていた知識  自分の体のなかに落ち着かせることができた。	知識を自分の体の中に落ち着かせることのできた常世田氏の講演

20	毎回すばらしくハイレベルな先生方の講演なので私などはもったいない	自分の知識への謙遜	大きい	図書館専門知識への謙遜
----	----------------------------------	-----------	-----	-------------

21	(司書) 資格がないまま仕事をしていますので、きちんとした勉強をしてみたいと考えています。	資格無いことへの不安 勉強への意欲	強い 強い	資格無しに比例する勉強への意欲
----	---	----------------------	----------	-----------------

19	質問：「受講申し込みをするにあたって大変だった点は何か」  司書業務を全く知らないため、日常の少ない勤務の中から推測するの身である点	講座受講への不安	大きい	少ない業務量からくる自分の知識量への不安
----	--	----------	-----	----------------------

22	ついていくのが、やっとなのですが・・・楽しくドキドキしながら、学ばせて頂いております。	自分の知識への謙遜 学びの楽しみ	強い 強い	ドキドキ感と学びの楽しみ
----	---	---------------------	----------	--------------

カテゴリ－7：新しい図書館情報学

3	図書館についての最新の動向を知り、実践に役立てられるようなことを学びたいです。	図書館の動向	最新で実践に役立つ	実践的で新しい図書館学への期待
---	---	--------	-----------	-----------------

6	激しい時代のうつりかわりに対応できるように	学びの理由	時代への対応	激しく変化する時代へ対応する学び
---	-----------------------	-------	--------	------------------

9	地域活性化に図書館が役立つとは思いませんでした。いろいろなシーンで使える"図書館が多くなれば…。	図書館への望み  図書館の意外な役割への驚き	"使える"図書館が増えること  大きい	図書館の「発見」
---	--	------------------------------	---------------------------	----------

カテゴリー 8：学校図書館のモデルとなる公共図書館

7	今後、学校図書館はどのような点を柱に運営したらよいか。公共図書館を参考にしながら。	学校図書館の運営	公共図書館を参考にする	学校図書館のモデルとなる公共図書館
---	---	----------	-------------	-------------------

カテゴリー 9：地域資料の再認識

14'	地域資料の大切さ、活用までの準備の大変さが良くわかり、自分達が地域資料をどう扱い活用に結びつけていくかを考えていく上で参考になることを多く学ぶ事ができました。	地域資料の認識 地域資料の活用	大切である。 準備の大変さ。	地域資料の重要性と活用
-----	---	--------------------	-------------------	-------------

6. カテゴリー関連図

ここでは状況、行為・相互行為、帰結の3つの視点から現象「受講者の学びの構造」を分析し、コアカテゴリーとカテゴリーに分類した。

現象名：受講者の学びの構造

(1) コアカテゴリー：不安を解消するための図書館情報学への意欲（状況）

カテゴリー 6：「不安を解消する学び」

カテゴリー 7：「新しい図書館情報学」

カテゴリー 1：「現代の情報環境」

(2) カテゴリー：認識の具体化と実践（行為・相互行為、帰結）

カテゴリー 3：「レファレンスサービスの再認識」

カテゴリー 4：「専門職としての知識の広がりとながり」

カテゴリー 2：「レファレンスサービスの喜び」

カテゴリー 8：「学校図書館のモデルとなる公共図書館」

カテゴリー 5：「学校図書館における社会の動きに合せた指導」

カテゴリー 9：「地域資料の再認識」

図1 カテゴリー関連図

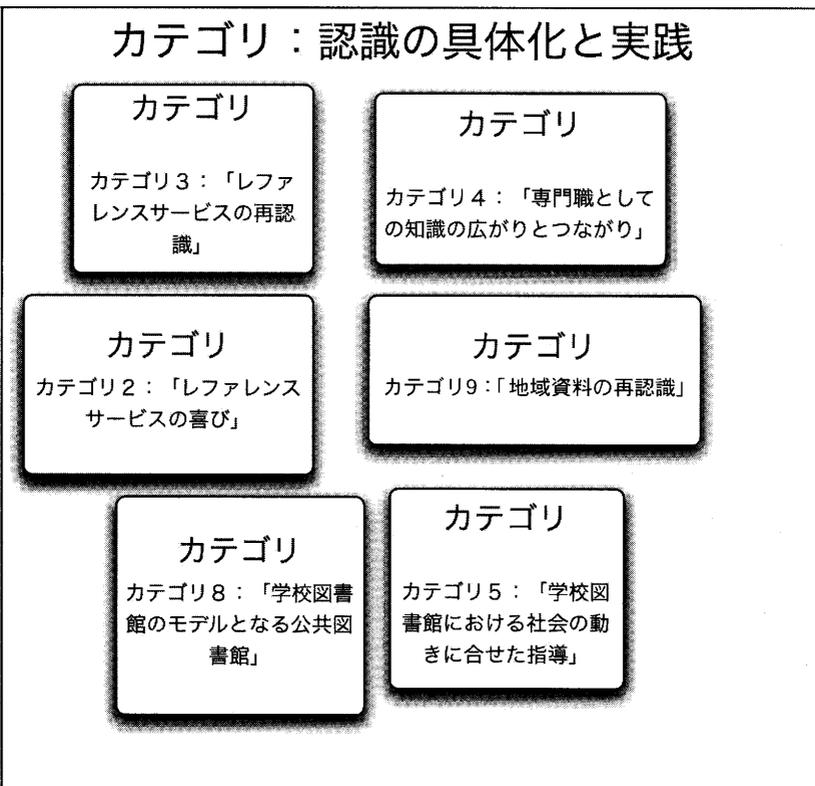
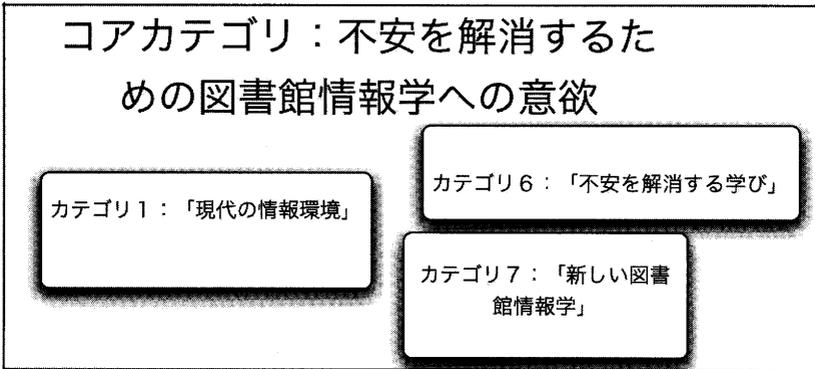


図1ではカテゴリ6：「不安を解消する学び」、カテゴリ7：「新しい図書館情報学」、カテゴリ1「現代の情報環境」をまとめ、コアカテゴリー：「不安を解消するための図書館情報学への意欲」を設定した。なぜならば受講者の受講動機や背景を構成しており、学びの出発点がこの3つのサブカテゴリーに含有されているからである。コアカテゴリーのデータから読み取れることは、多くの受講者が体系的な研修やリカレント教育を受講したことがなかったである。専門知識が不安定な状況で業務を行っていることが理解できる。例えば、常世田氏の授業を受けた受講者のコメントは興味深い。「『こういうことだったのか』と、フワフワと宙に浮いていた知識を自分の体の中に落ち着かせることができました」（データNo.17）。確信がなく業務や勉強していたことがこのデータからも推測される。「新しい図書館学をひとりで探して勉強するには難しい」（データNo.1）というデータからも、図書館職員の自学の難しさも推測される。

カテゴリー1「現代の情報環境」は常世田氏の「自己判断のための情報が保証されず、自己責任だけが課せられている」（データNo.2）という主張にインスパイアされたものと思われる。

通常のカテゴリ「認識の具体化と実践」はカテゴリ2、3、4、5、8、9をまとめたものである。「専門職としての知識の広がりにつながり」は、受講者の「司書」という専門職に対する願望を表現したものととらえることができる。例えば「まわりの人達にも知識・技能が広がっていくとよいと思います。」（データNo.16）、「取得者等の知識・技能を持った人達がそれを活かして活動できる環境を整えるために（長野県図書館協会人材登録制度は）良いと思います。」（データNo.15）この2つのデータは働く環境と学ぶ環境に対する具体的な願望を表したものと言える。

カテゴリ3「レファレンスサービスの再認識」は比較的多くのデータが集まったところである。「人に喜んでもらえ、自分も喜びを感じることでできる、やりがいのあるサービスであることが分かりました。」（データNo.4）、「日々、子どもたちと共に楽しんでいるレファレンスですが、齊藤先生の話がうかがって、ますますレファレンスが楽しみになりました。」（データNo.18）。これらのデータに出てくる「喜び」「楽しみ」は自らの経験と齊藤氏の授業が合わさって、表現されたものであろう。公

共図書館と学校図書館との連携（データNo.16）、資料と情報活用法の組み合わせ（データNo.11）など、具体的な課題の再認識がされている。

カテゴリ5「学校図書館における社会の動きに合せた指導」およびカテゴリ8「学校図書館モデルとなる公共図書館」は学校図書館職員受講者のデータでまとめたものである。この講座は主に公共図書館職員想定していたが、半数以上は学校図書館の関係者である。授業の内容は公共図書館の立場からのものが多い。そのため、自己責任型社会や公共図書館との関連に深く言及したデータが見いだされたようである。（データNo.8,12）特に学校図書館の指導内容について、自己判断・自己責任型社会への対応に気づいている受講者がいることは、常世田氏からの影響によるものと思われる。カテゴリ9「地域資料の再認識」については「地域資料の大切さ、活用までの準備の大変さが良くわかり、自分達が地域資料をどう扱い活用に結びつけていくかを考えていく上で参考になることを多く学ぶ事ができました。」（データNo.14）は地域資料の活用と図書館の役割について、受講者が再認識していることがわかる。

## 7. まとめ

現象「受講者の学びの構造」という視点からコアカテゴリー、カテゴリーに分類し、分析を行った。

受講者が自分の知識に対する不安を抱えながら、図書館業務を行っている。そのことが受講に繋がったのだと思われる。不安定な知識を是正するという動機、新しい図書館情報学を学ぶという意欲、常世田氏の主張に沿った「自己判断自己責任型社会」への認識、3回の受講という行為の結果、レファレンスサービス、地域資料、学校図書館における指導などの認識に変化が見られるようになった。帰結として、それぞれの業務に対する認識が今後の行動の指針（実践）につながっている。

## 8. 今後の課題

今後も継続して受講者アンケートを実施し、GTA研究の最終段階（セレクトティブコーディング）まで進めて行きたい。なお、アンケート調査に協力して頂いた皆様には心より感謝いたします。（了）

～図書館職員学び直し講座～

第1講座・図書館総合演習（課題解決支援サービス）

★総合演習：講義と演習形式。研修成果の発表

（第5回のみ上田情報ライブラリー）

★日 程：平成21年11月16日～22年3月15日。毎回、月曜日または火曜日の午後1時開講

★会 場：上田女子短期大学ほか

回	テ ー マ	概 要	講 師	所 属 等	月/日	時間
1	課題解決支援サービスの理論と先進事例	地域課題並びに住民の日常生活上の問題解決に必要な資料、情報を提供する図書館サービスの理論・方法、全国的先進事例を学ぶ。	常世田良	日本図書館協会理事・事務局次長 (元浦安市立図書館長)	11/16(月)	2
2	課題解決支援サービスとレファレンスサービス	公共図書館におけるビジネス支援、行政政策支援サービスの研究並びに第一線のライブラリアンとして活躍したその実践的レファレンスサービスに学ぶ。	齊藤誠一	千葉経済大学短期大学部准教授 (元立川市図書館司書)	12/1(火)	3
3	地域資料の活用と課題解決支援サービス	地域課題並びに住民の日常生活上の問題解決のために、地域資料をどう組織化し、行政や議会活動に活用するか。地域資料活用のパイオニアがその実践を解説する。	蛭田廣一	小平市企画政策部参事 (元小平市立図書館長)	12/14(月)	3
4	図書館だからこそできるエビデンスのある情報提供	エビデンス(証拠)に基づいたデータベースやサイトの紹介、検索ノウハウの解説。医療・介護情報や環境問題、ビジネス支援等の課題解決に有用な検索サイトを使い演習を行う。	森田歌子 植松利晃	JST(科学技術振興機構)参与・同情報整備課	1/18(月)	3
5	産学官連携の地域づくりと図書館	ニーズと研究成果を結び地域に大きな収穫をもたらしているAREC。そのARECの視点から、地域や住民に役立つこれからの図書館サービスを考える。	岡田基幸	信州大学特任准教授 AREC(浅沼リサーチエクステンションセンター)事務局長	2/1(月)	3
6	課題解決支援サービスと関係機関等との連携・協力	これからの図書館は大学、関係機関・団体、研究者との連携・協力が益々重要になっている。その関係構築の方法、運用の事例と実際について解説する。	宮下明彦	長野県図書館協会事務局長 上田女子短期大学非常勤講師	2/15(月)	2
7	ケースメソッド	ケースメソッドは経営学に多用されている実践的な教育です。これを図書館に応用し、現場における問題解決の方法を学びます。また討論を通じてコミュニケーション能力の向上を目指す。	木内公一郎	上田女子短期大学准教授	3/8(月)	2
8	研修成果の発表会	受講者から研修成果を発表してもらう。評価のいい発表、優秀論文は県図書館協会ホームページ等に発表。	宮下明彦	長野県図書館協会事務局長 上田女子短期大学非常勤講師	3/15(月)	2
計						20

※それぞれの授業日の一週間前までにお申し込みください。

～~~~~～<切り取り線>～~~~~～

上田女子短期大学 図書館職員学び直し講座 受講申込書

<input type="checkbox"/> 第1回講座・図書館総合演習の全授業に申し込みます。		平成 年 月 日		(顔写真) 縦 36～40 横 24～30 mm
<input type="checkbox"/> 第1回講座・図書館総合演習 次の授業に申し込みます。		1・2・3・4・5・6・7・8 (○で囲んでください)		
ふりがな		申	生	昭和 年 月 日
氏名		込	年	
		印	月	
			日	
連絡先	(〒 )	E-mail: (携帯) - -		
	(TEL) - -			
参考とさせていただきます。	小・中・高等学校図書館や 公立図書館に勤務している	(勤務先)		
該当する場合はご記入ください。	資格の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
	(司書・司書教諭など)	資格名称:		
備考				

(お申し込みいただいた個人情報は厳重に管理し、適切に取り扱させていただきます)

## 図書館職員学び直し講座 受講者アンケート

上田女子短期大学エクステンション委員会

このアンケートは講座全体の改善を目的として受講生の皆様のご意見を伺うものです。得られた情報に関しては、運営改善の参考とさせていただきます。また学内の報告書・紀要等に掲載される予定です。

以上の点についてご了解をいただけるようでしたら、ご協力をお願いします。

(無記名)

Q 1 所属図書館の種類についてお答えください。

1. 公共図書館 2. 学校図書館 3. 大学図書館  
4. そのほか( ) 5. 所属なし

Q 2 学び直し講座の中で主にどのようなことを学びたいと考えていますか。

( )

Q 3 受講申し込みをするに当たって大変だった点は何ですか。

1. 開講日 2. 時間 3. 会場 4. 受講料 5. 職場の理解  
6. その他( )

Q 4 過去3回の授業に関する意見や感想をお聞かせください。

Q 4 - 1 常世田良先生の講演について

Q 4 - 2 齋藤先生の講演について

Q 4 - 3 蛭田先生の講演について

Q 5 「図書館職員学び直し講座」全課程修了者に対して上田女子短期大学から「履修証明書」が付与されます。あなたは、「履修証明書」の取得を目指しますか。

1. はい      2. いいえ

(裏面に続きます)

Q 6 長野県図書館協会は、県下の図書館等の求職情報及び求人情報の提供を検討する予定です。また、「履修証明書」取得者等を対象にして、人材登録制度も検討の予定です。このことについて、ご意見等をお聞かせ下さい。

( )

Q 7 今後の開講予定科目について、希望する講師等ありましたら挙げてください。また、現在計画している開講科目以外で希望する科目があったら挙げてください。

( )

Q 8 学び直し講座全体に関してご希望、ご意見、ご質問等ありましたらご記入ください。

( )

以上ご協力ありがとうございました。

1 上田女子短期大学 図書館職員学び直し講座

([http://www.uedawjc.ac.jp/news\\_from\\_jc/2010/news\\_from\\_jc2010-02.html](http://www.uedawjc.ac.jp/news_from_jc/2010/news_from_jc2010-02.html))

最終アクセス 2010年4月20日

2 木内公一郎. 公共図書館職員の研修への意識と考え方アンケート調査から読み取る. 観光研究所所報, 第7号(2009), p13-22

3 戈木クレイグヒル 滋子. 質的研究方法ゼミナール グラウンデッド セオリーアプローチを学ぶ. 増補版. 医学書院, 2008.

戈木クレイグヒル 滋子. ワードマップ グラウンデッド・セオリー・アプローチ理論を生みだすまで. 新曜社, 2006.

アンセルム・ストラウス, ジュリエット・コービン著, 操 華子訳

質的研究の基礎—グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順. 医学書院, 2009